

参考様式第9-2号(第9条関係)

現在、リハビリテーション部では、院内で保管している診療後の診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題で利用する診療情報等の利用について、当院の倫理審査委員会の承認を得て、病院長の許可を受けて実施するものです。この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の検体・診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供してほしくない」と思われた場合にも下欄の研究内容の問い合わせ担当者までその旨をご連絡ください。

<p><b>【研究課題名】</b> 脊椎椎体骨折保存患者における退院遅延因子</p>
<p><b>【研究対象者】</b> 2017年1月から2020年12月のうち、いずれか1年間に脊椎椎体骨折(椎体圧迫骨折)により本院に入院し、リハビリテーションを実施された方</p>
<p><b>【利用している残余検体・診療情報等の項目】</b> 〔診療情報等〕 研究対象者について、下記の臨床情報を電子カルテより取得します。 ① 基本的情報:年齢,性別,身長,体重,受傷起点,入院前の居住地,同居者の有無,入院時の介護度,ステロイドの有無,入院時のADL介助レベル,入院時の歩行レベル,退院時の歩行レベル,転帰先 ② 入院に関する情報:在院日数,リハビリ開始までの期間,リハビリ期間 ③ 画像所見:受傷時の椎体骨折数,受傷椎体部位,既往の椎体骨折数,既往の椎体骨折部位,既往の椎体骨折の隣接椎体骨折であるか,後壁の損傷の有無</p>
<p><b>【利用の目的】</b>(遺伝子解析研究(有・<b>無</b>)) 脊椎椎体骨折保存患者における在院日数に関しては、歩行能力や日常生活動作などとの関連についての報告はありませんが、個人因子や画像所見などと在院日数に関する因子についての報告はあまりありません。脊椎椎体骨折患者における在院日数の短縮という観点から退院遅延因子を明らかにして、早期退院の一助とすることです。</p>
<p><b>【主な共同研究機関及び研究責任者】</b>(営利企業との共同:有・<b>無</b>) 上記の診療情報等を研究責任者と本院共同研究者にて閲覧します。 また、下記機関の共同研究者に情報を提供し、学会発表および論文作成時に助言を頂きます。 <b>【主な提供方法】</b> <input type="checkbox"/>直接渡し <input type="checkbox"/>郵送・宅配 <input checked="" type="checkbox"/>電子的配信 <input type="checkbox"/>その他 <b>【共同研究者】</b> 日本保健医療大学 理学療法学科 講師 東 裕一 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科 教授 金子 秀雄 医療法人社団高邦会 高木病院 リハビリテーション部 理学療法士 香田 重治, 下村 拓也, 中村 駿佑</p>
<p><b>【利用期間】</b> 2021年9月20日～2023年3月31日までの間</p>

**【この研究での検体・診療情報等の取扱い】**

倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした検体や診療情報には匿名化処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

**【医療法人社団高邦会 高木病院 研究責任者及び研究内容の問い合わせ担当者】**

研究責任者:平田 靖典

電話:0944-87-0001(代表)(内線:3242)(対応可能時間:平日9時～17時)

Fax:0944-87-9310

Eメール:16s1147@giuhw.ac.jp